

特集

ジェンダーを読む一本 『男女平等からの ルウェイ』

けること、生活のための収入などは、どちらにとつても同じように必要です。他にもいろいろと話し合ひましょう」というように、非常に具体的に示されています。

不十分なが法律も制定され、男女の不平等が、表面的には見えにくくなっている日本では、この具体的視点は殊に大事でしょう。

愛するということとは

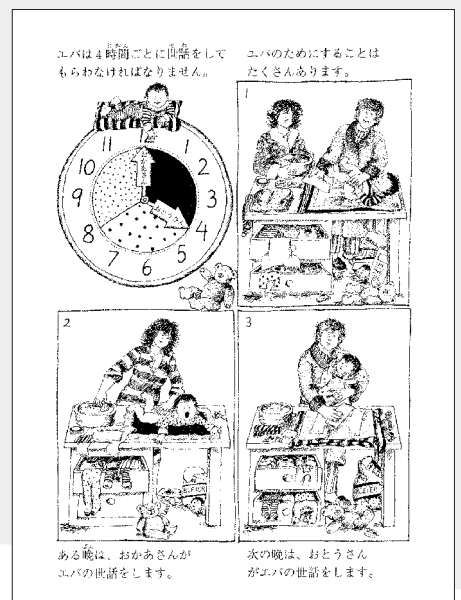
一緒に働くこと

怒った時でも

絶対ぶつたいしないこと

女の子でも男の子でも、かけがえのない大切な一人の人間ですよということをまず述べてから、女性と男性のつながりに入っていきます。「お互いに好きだということとはとてもすてきなこと。愛するということとは、困っている時に慰めてあげること」と次に「一緒に働くこと、互いに分け合うこと」と続きます。男性と女性との関係に「働くこと」が見事に結び付けられ、少し応用するだけでペイドワーク(有償の仕事)とアンペイドワーク(家事育児などの無償の仕事)の公平な分担に広げられます。

また、「怒った時でも絶対ぶつたりしないこと」は、今、大きな問題になっているDVへとつながっていることは、すぐにお解かりになるでしょう。



ノルウェイ『男女平等の本』1より

この後に主人公エバを中心にして、両親共に仕事も家事育児も分担して楽しそうに暮らす家族のイラストが続きますが、「お父さんはエバの世話をするのが大好きです」というように、育児が男性にとつても人生を豊かにする素敵なことというメッセージがのせられていたり、「赤ちゃんが生まれたら、友達や近所の人や家族は、お母さんやお父さんをどのように助けてあげられますか」と問いかけ、育児は母親だけではなく社会全体で関つていく問題であることを伝えていきます。

ジェンダーを脱ぎ捨てる

unlearn
アンラーン
の教育

また、子どもたちに、家から人形と赤ちゃん用品を持ってこさせて赤ちゃんの世話のシミュレーションをさせるところがあります。「ほとんどの男の子が人形を持っていないの